

## 3) 鳥取県立博物館所蔵 竹島関係資料

資料NO	資料名	資料説明	備考
1	『竹嶋之書付』(一部) (翻刻文)	『竹嶋之書付』は、享保9年に幕府へ提出した、鳥取藩が関わった竹島(現、鬱陵島)関係の記録をまとめたもの。同書所収の竹島、及び松島(現、竹島)の帰属に関わる幕府と鳥取藩の応答の中で、関連箇所のみ抽出したもの。	
2	『竹嶋之書付』(一部) (現代文)	資料1を現代文にしたもの。	
3	『竹嶋之書付』所収 「元禄8年12月24日付け書付」	資料1掲載の「鳥取藩に対する幕府の問い合わせ 元禄8(1695)年12月24日」の全文。	『鳥取藩史 第6巻』 「事変志一」471頁掲載
4	『竹嶋之書付』所収 「元禄8年12月25日付け返答書」	資料1掲載の「幕府への鳥取藩の回答 元禄8年12月25日」の全文	『鳥取藩史 第6巻』 「事変志一」472頁掲載
5	『竹嶋之書付』所収 「元禄9年1月25日付け覚書」	資料1掲載の「鳥取藩が幕府へ提出した「松島」に関する覚書 元禄9(1696)年1月25日」の全文	『鳥取藩史 第6巻』 「事変志一」473頁掲載
6	『竹島考(上)』所収 「竹島松島之圖」	『竹島考』は、鳥取藩士岡嶋正義が、文政11(1828)年に編纂した竹島(現、鬱陵島)に関する地誌。上下2巻で構成。本図は、大谷・村川両家が幕府に提出した地図の縮図。	
7	『竹島考(下)』所収 「渡海を禁止する奉書」 「異船ノ人員之記並舩験ノ図」	『竹島考(下)』に掲載される、元禄9年1月の竹島への渡海を禁止する奉書と、同年6月に安同知が来日した際の乗船者11名の名前・肩書きと乗船に掲げていた舩験。「人員ノ記」「舩験」は、青谷の茶屋兵助が所持するものと記される(現存せず)。	
8	『因府年表 五』 元禄六年(一六九三) (現代文)	『因府年表』は、鳥取藩士岡嶋正義が天保13(1842)年に編纂した鳥取藩の年表。五巻は、貞享3～元禄6年の記事を収める。本資料は、アンピンシャ(安龍福)の第1回目の来日について記した6月4日～7日の記事を現代文にしたもの。(翻刻文は、資料9を参照)	
9	『因府年表 五』 元禄六年(一六九三) (翻刻文)	『因府年表 五』の元禄6年5月末～6月中旬の翻刻文。	『鳥取県史 7 近世資料』170頁掲載
10	『因府年表 六』 元禄九年(一六九六) (現代文)	『因府年表』六巻は、元禄7～13年の記事を収める。本資料は、安同知(龍福)の第2回目の来日について記した6月4日～21日の記事を現代文にしたもの。鳥取藩主と面会したとの記録はない。(翻刻文は、資料11を参照)	
11	『因府年表 六』 元禄九年(一六九六) (翻刻文)	『因府年表 六』の元禄9年5月中旬～6月21日の記事の翻刻文。	『鳥取県史 7 近世資料』189頁掲載
12	『鳥取藩史 第六巻』 「事変志一」 (現代文)	『鳥取藩史』は、鳥取藩政資料をもとに、明治42～昭和8年に旧藩主池田侯爵家によって編纂された。その後、鳥取県立図書館によって、昭和40年代に刊行された。「事変志一」には、元禄9年に安同知が二度目に来日した際の鳥取藩の対応が詳しく載せられている。(翻刻文は、資料5を参照)	
13	『鳥取藩史 第六巻』 「事変志一」 (原文)	資料12の原文。	『鳥取藩史 第6巻』 「事変志一」474-475頁掲載

※上記以外に、『鳥取藩史』編纂の根本資料となった、元禄6年の『控帳』(鳥取の家老の元で記録された日記)や、元禄6年の『控帳』、同9年の『御用人日記』(藩主側近の御用人が記録した日記)がある。いずれもアンピンシャ、安同知が藩主と面会したとの記事はない。